



佐賀町長の就任のあいさつに耳を傾ける皆さん

● 佐賀利裕町長「初登庁式」

# 新しい風を次の世代の希望につなぐ 行政運営をめざして。

4月5日に執行された与謝野町長選挙において初当選された佐賀利裕新町長の初登庁式を、同月16日に執り行いました。役場本庁舎前には約150人が集まり、新町長の初登庁を見守りました。

今月号では、初登庁式で語られた新たなまちづくりへの思いについてお知らせします。

皆さん、おはようございます。与謝野町長の佐賀利裕でございます。本日は、大変お忙しい中、また朝早くからこんなにたくさんの方々に集まりいただきまして、本当にありがとうございます。私は過日の与謝野町長選挙におきまして、大変多くの方々から大きな期待と重い責任をいただきました。これにお応えすべく、これからこのまちで頑張る方々を応援し、そして元気づけられるような町政に努めていきたいと思っております。同時に、私はこの「新しい風」を皆様からいただきました。この新しい風を次の世代の希望につなげるような行政を行ってまいります。

## 公務員に徹する

本日は初登庁式ということで、もう一つお誓いを申し上げます。それは、「公務員に徹する」ということです。

ります。公務員というのは、公の任務に就く職員のことです。与謝野町の職員、公務員としましては、何よりもこのまちの進歩・発展に貢献することにも、このまちに住むすべての方々の生活と暮らしをお守りすることが、最大の行動の目的であると思っております。私は任期の間もこの気持ちを忘れずに、常に行政に精励してまいります。決して私利私欲を求めたのではなく、また、公明正大な、そして公平な行政をまことにいきたらせたいと思っております。これは私個人に限らず、この与謝野町役場に勤めるすべての職員におきましても、住民お一人おひとりに向き合っており、住民の皆様の方を向いた行政サービスを提供させていただくことをお誓いしたいと思います。

## 皆様と進める町政

まだまだ未熟ではございますので、皆様方からいろいろと教

えていただくこと、それからご指導・ご提案いただくことに対して、そこから学んで、そして対話とご相談を通して、より皆様のお役に立てるような行政を行ってまいります。

大変簡単ではございますが、今の二つをお誓い申し上げます。私の就任のあいさつとさせていただきます。本日はご清聴ありがとうございました。\*

※一部、広報紙向けに編集をしています



佐賀 利裕 (63)

1962 (昭和 37) 年生まれ。三河内区在住。加悦谷高校 (現・宮津天橋高校加悦谷学舎) を卒業後、中央大学に進学し政治学を専攻。同大学卒業後、電子部品メーカーの京セラ株式会社に入社。グループ会社の京セラドキュメントソリューションズ株式会社に在職時には欧州に駐在し、北欧統括会社総支配人や本社欧米営業部長を歴任。令和 4 年 1 月に帰郷。元与謝野町行政改革推進委員会委員 (令和 4 年 7 月～7 年 7 月)、元京都府立宮津天橋高等学校 P T A 会長 (令和 7 年 4 月～8 年 3 月)。令和 8 年 4 月 5 日の与謝野町長選挙において初当選し、現在 1 期目。好きな言葉は、京セラ創業者・稲盛和夫氏の「利他の心」。

### >>>> 囲み取材メモ

Q / 初登庁を終えられた感想は？

思っていたよりも集まられた方が多くて大変びっくりした。

Q / 今の意気込みを教えてください。

選挙を通じて訴えてきた「住民の皆さんの生活と暮らしを守る」の実現に向けて、施策を進めていくことにワクワクしている。

Q / まず、取り組みたいことは？

まずは 6 月の補正予算に向けて財政状況を確認したい。骨格予算が例年になく大きな金額になっている中で、補正予算を組んでいかなければならぬ、財政を見据えたうえで進めていきたい。加えて、事務事業に限られた人材の中で進めていくために、職員と対話をしながら事業の優先度をつけて対応していきたい。

Q / スピード感が求められているが？

選挙期間中、財政健全化を訴えてきた。財政が厳しい中、補正予算の段階で数字で示したいと考えている。また、私自身マニフェストを明確に出していないため、6 月を目途にまとめた。



町長 佐賀利裕



花束を受け取る佐賀町長 (右)